

# 平成29年度 宮城県産業教育審議会会議録

宮城県教育委員会

- 1 日 時 平成30年1月12日(金)  
午前10時から午後0時5分まで
- 2 会 場 宮城県庁 第一会議室 (行政庁舎9階)  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
- 3 次 第
  - 1 開会
  - 2 開会の挨拶  
宮城県教育委員会教育長
  - 3 議 事
    - (1) 報 告
      - イ 新県立高校将来構想第3次実施計画
        - (イ) 水産高校, 農業高校, 気仙沼向洋高校の新校舎建設状況
        - (ロ) 南部地区職業教育拠点校教育基本構想
      - ロ 専門学科の進路状況
    - (2) 議 題
      - イ 専門学科の新たな取組の状況・課題について
        - (イ) 白石工業高校
        - (ロ) 工業高校
        - (ハ) 水産高校
        - (ニ) 農業高校
        - (ホ) 大河原商業高校
        - (ヘ) 登米総合産業高校
      - ロ その他
  - 4 閉 会

## 【資料一覧】

- |       |   |
|-------|---|
| 資料1-1 | 産業教育振興法(抜粋)                               |
| 資料1-2 | 産業教育審議会条例                                 |
| 資料1-3 | 情報公開条例(抜粋)                                |
| 資料2   | 委員名簿・座席表                                  |
| 資料3   | 平成28年度宮城県産業教育審議会提言「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」 |
| 資料4-1 | 新県立高校将来構想第3次実施計画 ※別紙(水産・気仙沼向洋・農業 校舎配置図)   |
| 資料4-2 | 南部地区職業教育拠点校教育基本構想 ※柴田農林高校現況図              |
| 資料5-1 | 専門学科の進路状況                                 |
| 資料5-2 | 平成29年度専門学校等の設置学科一覧(平成29年度入学生)             |
| 資料5-3 | 専門学科別配置図                                  |
| 資料6-1 | 専門学科の新たな取組の状況・課題について                      |
| 資料6-2 | 白石工業高校                                    |
| 資料6-3 | 工業高校                                      |
| 資料6-4 | 水産高校                                      |
| 資料6-5 | 農業高校                                      |
| 資料6-6 | 大河原商業高校                                   |
| 資料6-7 | 登米産業高校                                    |

## 平成29年度宮城県産業教育審議会

進行  
(事務局 佐々木)

委員の皆様、本日は御多用のところ御出席をいただきまして、大変ありがとうございます。開会に先立ちまして、本審議会は情報公開条例19条に基づき、公開となりますので、よろしくお願いいたします。

ここで、本日の資料並びに日程の説明をさせていただきます。  
本日の次第、条例等を綴じた資料1、委員名簿と座席表の資料2、昨年度出されました提言の資料3、新県立高校将来構想第3次実施計画の資料4-1、南部地区職業教育拠点校教育基本構想の資料4-2、専門学科の進路状況等を綴じた資料5、専門学科の取組事例を綴じた資料6、水産高校、農業高校、気仙沼向洋高校の配置図を閉じた別紙、そして審議委員の皆様には産業教育審議会意見用紙と記載されておりますFAX様式を用意いたしましたので、御確認ください。資料3の提言につきましては、特に説明はいたしません。資料として御用意いたしました。本日の日程は、配付しております。次第のとおり進めて参りたいと思います。終了時刻は11時50分を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

### 1 開会

進行  
(事務局 佐々木)

ただいまから、平成29年度宮城県産業教育審議会を開会いたします。  
はじめに、宮城県教育委員会教育長 高橋 仁が挨拶を申し上げます。

### 2 開会の挨拶

高橋 仁 教育長

平成29年度宮城県産業教育審議会の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

皆様には日ごろより、本県産業教育の充実・発展のために御支援・御協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。また、本日は、大変御多用のところ、審議会に御出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、本県の高等学校の産業教育につきましては、各専門高校等において、将来のスペシャリストとしての基礎・基本の習得、多様な進路への対応、地域や産業界との連携による教育など、各高校の特色を生かした専門教育を推進し、地域を支える人材を育成しているところであります。昨年も県庁とその周辺を会場として産業教育フェアを開催しまして、大変多くの県民の方々においでいただき、それぞれの学校で産業教育を学ぶ高校生たちの活動の様子をご覧いただくことができたと思います。

さて、我が国におきましては、情報化やグローバル化といった社会変化が人間の予測を超えて加速度的に進展しておりまして、第4次産業革命ともいわれる時代が到来したといわれ、近い将来、社会や生活が大きく変化していきだろうと予測がされているところであります。このような産業界の動向やニーズを踏まえ、東日本大震災を乗り越え、専門高校等における職業教育の一層の充実・改善をしていかなければならないという状況にあります。この審議会におきまして、これまでも産業教育の在り方について、さまざまな角度から御意見を頂戴してきているところではございますが、今後さらに本審議会において学校の外から様々な形で御意見を頂戴していくことが極めて重要であると認識しております。

昨年の3月には、本審議会から「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」として御提言を頂戴し、その内容も参考にしながら、「新県立高校将来構想第3次実施計画」を策定したところであります。

本日の審議会では、大震災で甚大な被害を受けた水産高校、農業高校及び気仙沼向洋高校の再建の状況について、スライド等を用いて御報告をさせていただきたいと思っ

おります。いずれも今年中には完成して生徒たちが新校舎に移ることになっております。また、南部地区における職業教育拠点校、これは大河原商業高校と柴田農林高校を統合再編して作る新しい学校でございますが、その検討状況に関する進捗状況について、また、最近の各高校の取組等について報告させていただき、専門の見地から具体的な御意見を頂戴し、今後の専門学科の教育の充実に役立てていきたいと考えております。よろしくお願いを申し上げます。

結びに、今後とも本県における産業教育の充実のために、審議会の委員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

進行  
(事務局 佐々木)

ここで、教育長は所用のため退席させていただきます。

本日は12名中10名の御出席をいただいております。本日御出席の委員の皆様及び教育委員会の主な職員を紹介いたします。菅原委員から時計回りの順に御紹介させていただきます。

宮城県専修学校各種学校連合会 会長	菅原 一博	委員でございます。
宮城県漁業協同組合 代表理事 理事長	小野 秀悦	委員でございます。
工藤電機株式会社 代表取締役	引地 知恵	委員でございます。
宮城県中小企業団体中央会 専務理事	及川 公一	委員でございます。
東北大学大学院 教授		
本審議会の会長	伊藤 房雄	委員でございます。
仙台商工会議所 参与		
本審議会の副会長	間庭 洋	委員でございます。
宮城教育大学 教授	本 凶 愛 実	委員でございます。
東北福祉大学 教授	塩 村 公 子	委員でございます。
宮城県経済商工観光部 次長	高 橋 裕 喜	委員でございます。
宮城県高等学校長協会より		
松山高等学校 校長	栗 野 琴 絵	委員でございます。

なお、宮城県農業協同組合中央会 常務理事 竹中 智夫委員、宮城学院女子大学教授 平本 福子委員が欠席となっております。よろしくお願いいたします。

続きまして、教育委員会の主な職員を紹介いたします。

宮城県教育委員会 教育次長	清元 けい子	でございます。
高校教育課 参事兼課長	岡 邦広	でございます。
高校教育課 副参事兼課長補佐	佐藤 淳	でございます。
高校教育課 副参事兼課長補佐	千葉 胤継	でございます。以上でございます。

それでは、配布資料の1-2の産業教育審議会規則第5条に基づき、会長が議長となりますので、議事進行につきましては伊藤会長に議長をお願いしたいと存じます。

伊藤会長、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 議事(1) 報告 伊藤房雄 会長

本年もどうぞよろしくお願いいたします。本日の審議会ですが、昨年度本審議会です。示した提言を受けての各校の取組事例の報告を聞きながら、皆さんと意見交換を行い、今後の教育の充実に役立てたいという趣旨だと理解しています。時間が限られています

けれども皆さんから建設的な意見を出していただければと思いますので、進行について何卒御協力をお願いいたします。

それでは次第に沿って進めていきたいと思っております。

議事の（１）報告のイ 新県立高校将来構想第３次実施計画について、事務局お願いいたします。

事務局 黒田賢一

事務局の黒田です。私の方から新県立高校将来構想第３次実施計画について御説明いたします。

資料は４－１になります。本計画は昨年２月に出されました。これは、平成２３年度から平成３２年度までの１０カ年を期間としている新県立高校将来構想の最終計画期間となる、平成２９年度から平成３２年度までの４年間に於ける県立高校教育改革の具体的な取組を示しています。

この計画を作成するにあたりましては、お手元に配付させていただきました平成２９年３月に本審議会からいただきました提言の内容も取り入れておりますので、ポイントを説明させていただきます。

資料の１ページをご覧ください。１ページに第３次実施計画策定体系図、未来を担う人づくりの図がございます。

第２章に高校教育改革の取組として５つの項目が示されていますが、１の「学力の向上」では（４）学校外の教育資源の活用の部分で、３の地域のニーズに応える高校づくりの推進では（１）地域とつながる高校づくりの推進、（２）開かれた高校づくりと安全対策の強化で、５の「東日本大震災からの教育の復興に向けた取組」では、（２）宮城の復興を担う産業人材の育成の部分で、産業教育について触れられています。

第３章の社会情勢の変化に的確に対応した学科編成・学校配置として、１の「水産高校、農業高校及び気仙沼向洋高校の再建」に関して、６次産業化等の新たなニーズに対応した教育施設との文言が記載されています。

２「学科編成について」では、専門学科については、産業構造の変化に対応した魅力ある学科への改編や地域のニーズを踏まえた職業教育拠点校の設置と示されています。

３「学校配置計画・学科編成」のところには、南部地区への職業教育拠点校の新設などが示されています。３ページ以降に詳細な説明があるのですが、この場では、省略させていただきますので、後ほど資料をご覧ください。

続きまして、新校舎建設状況等についてスライドの方で説明させていただきます。

事務局 佐藤 洋

事務局の佐藤です。

今現在の新校舎の建設状況を御報告させていただきます。スクリーンをご覧ください。

はじめに水産高校の状況です。

水産高校の位置するところは石巻市宇田川町になります。敷地の移転はございません。

石巻線の渡波駅から徒歩５分程度のところに校舎がございます。新校舎は元のグラウンドの北側に建設中で、水産高校の新校舎の外観パースはご覧のとおりです。

こちらが１階の平面図になります。上の方が北側です。南側に昇降口があります。その反対側の方に職員・来賓玄関、中央部に中庭、他に普通教室・食堂・調理室・校長室があります。校長室の写真がありますが、１１月３０日現在、工事中です。調理室・普通教室も工事中の写真です。

２階部分には、図書館・理科実験室・大会議室・職員室があります。職員室・理科実

験室も11月30日現在、このような状態です。

3階部分には、普通教室・選択教室・視聴覚教室があります。視聴覚教室もこのような状態で建設中です。

これが、11月30日現在、今現在の校舎棟の方から撮った画像になります。そして、これが20日後に撮影された状況です。だいぶ外観が現れて、足場も取られていて、現在は普通教室が含まれる第3工区部分が建設中とのことでした。

次に裏の北側から撮影したものです。全容がだいぶ分かるようになっていました。ここまでが水産高校の建設状況になります。

続いて農業高校になります。

農業高校は、被災によって名取市高館にある農業大学の敷地内にある仮設校舎で現在授業を行っています。そこから東の方に約1km離れたところに新校舎が位置します。名取第二中学校の隣に位置するような形になるかと思えます。

造成の計画平面図から見ますと、こちらに名取第二中学校がありますが、ここに隣接する形で新校舎がありまして、校舎ゾーン・グラウンドゾーン・管理棟ゾーン・6次産業化ゾーン・草花ゾーン・畜産団地ということで作られています。

新校舎の配置図になりますが、下が南側になります。生徒の教室がある校舎南棟、プールがありまして、中央に特別教室等が入る校舎北棟、こちらが体育館、北側には寄宿舎・テニスコート・弓道場があります。

これが今年の5月に撮影されたものになります。だいぶ校舎も形作られて、その他の建造物も基礎が作られている様子が見て取れるかと思えます。

これが11月の状況になります。校舎内の中庭、センターパークになります。校舎自体は2階建てです。

1階平面図、下側が南で校舎南棟になります。生徒昇降口・普通教室があります。こちらが今建設中の教室と昇降口の状況になります。

次に2階の平面図になります。普通教室が6部屋ありまして、職員室・大会議室・コンピュータ室・美術室があります。これが大講義室の写真になりますが、まだ机・椅子は配置されていませんが、1学年240人が収容できる部屋になります。

次に、建設予定図になります。体育館・寄宿舎の自啓寮・同窓会館についてです。これが体育館の内部と外観になります。これが遠目になりますが、自啓寮を東側から撮影したものです。こちらが同窓会館です。造成計画のところから校舎側からグラウンド側を見たところになります。こちらは今年の11月に教育長と訪れた際に撮影したものです。校舎側からグラウンド側を見ますと、3m程の高さまで土盛りされたグラウンドが目に入りました。グラウンドに行くためには、こちらの橋を渡るか、または道路側から入るかということで、ここの水路を越えて入る形になります。

次に6次産業化ゾーンです。こういった形で建物がありまして、農業機械科実習棟、食品化学科実習棟、東側の方に6次産業化実習棟があり、ここで農産物が加工され販売されるということになります。南側の方に農場管理棟ということで、講師の先生方の部屋・生徒の更衣室・大農具室になっています。

次に草花ゾーンということで、温室が建てられています。東側から西側を見た写真ですが、名取二中から見て西に草花ゾーン、先ほどの6次産業化ゾーンの農業機械科の実験棟という位置づけになります。

次に、少し離れていますが畜産団地です。こちらが北西側から撮影したものになります。だいぶ大きな畜舎になりますが、乳牛・肉牛・養鶏・養豚と一通り畜産が学べる施設になるようです。これは西側から東側を撮影した写真になります。新校舎がここになりますのでだいぶ遠い感じがします。

次は、水田と畑の様子になります。造成した土地ということで有機質であったりとか粘土質が強いというところで見るとおりですが農作物が丈夫に育てられるようになるまでには多少時間がかかるかと思われます。

これは昨年度末に北側から撮影されたものになります。実習圃場から校舎はだいぶ離れている感じがしますが、今現在、間借りしている状況を考えれば最適な環境ではないかと思われます。

これが完成予定図になります。ここまでの農業高校の建設状況になります。

次に気仙沼向洋高校についてです。

気仙沼向洋高校は、現在被災によって気仙沼高校第二グラウンドの仮設校舎で授業をしておりますが、被災前の階上にあった敷地から東側に約1km離れたところに新校舎が建築中です。

これが新校舎外観パースで、現在建設中です。

敷地内の配置図です。普通教室が入る校舎棟・実験棟・生徒会棟・体育館になります。屋内運動場、野球とサッカー場、陸上とラグビー場として使われるところです。

こちらは南側から校舎の様子を撮ったものです。これが校舎棟になります。昨年11月16日に撮影したものです。まだ足場が取れていない状況です。

次に北側から実習棟を撮影したものになります。

こちらは実習棟を西側から撮影したものになります。これが生徒会館になります。ここはだいぶ足場も取れて全容が見えてきております。

次に体育館・プール、その奥に野球場があります。

こちらが生徒会館、校舎棟になります。この部分が陸上とラグビー場になります。

これが航空写真になります。今年の6月現在で基礎工事がされている状況になります。先ほどの図面と同じような形で建設されております。

これが外観パースで、このように作られているということになります。

ここまでの気仙沼向洋高校の建設状況になります。

以上で3校の新校舎建設状況の説明を終わります。ありがとうございました。

事務局 黒田賢一

続きまして、南部地区職業教育拠点校教育基本構想について、御報告いたします。資料は資料4-2になります。

今年度は、南部地区職業教育拠点校教育基本構想を作成するために、4月から各学科代表の先生方と教育庁の関係者で構成する「南部地区統合校教育基本構想検討会議」を設置して検討してまいりました。まとまったものがそちらの資料4-2になります。

概要にありますとおり、新設校は1学年6学級で240名定員、農業系学科2学級、商業系学科3学級、デザイン系学科1学級で、柴田農林高校の敷地内に平成35年4月に開校予定としています。先ほどの第3次実施計画時点では34年となっておりましたが、変更になっています。平成35年度は1年生のみで開校し、柴田農林高校と大河原商業高校は3年生が卒業する平成36年度末に閉校となります。

基本理念は、中央に示してありますが、地域ブランドの確立に取り組み、地域振興へ貢献することやそれぞれの学科の特色を生かし6次産業化を軸とした学科間連携による先進的な産業教育を展開するなどとしています。また、育成する力として、将来のスペシャリストとしての必要な思考力・判断力・表現力をもち、それらの能力を生涯にわたって発揮できる力など5点にまとめております。

次に2ページをご覧ください。

設置学科は先ほど3学科設置とお話ししましたが、学級数に合わせてそれぞれ類型を

設置する予定です。デザインにつきましては、仮称ですが企画デザイン科としております。企画デザイン科は、大学科の分類としては商業としますが、宣伝広告等印刷物に関するグラフィック及びWebデザイン、商品企画開発や商品化に向けた企画デザインなど、付加価値の高い商品・ものづくりなどを学習内容としております。また、教科横断的かつ専門性の高い学校設定科目を設置するなどして、公立では県内初のデザイン系の学科として、学習内容に独自性を持たせることとしております。

次に教育課程の基本方針は、基本理念を実現するためのものとなりますが、具体的教育課程については、平成30年度に設置する準備委員会で検討を進めることとなります。

続いて3ページをご覧ください。3ページの中央には、3学科連携のイメージを示していますが、連携によって6次産業化の一体的・循環的な学びの構築が可能になると示しております。

最後に、4ページをご覧ください。開校に向けたスケジュールを示しております。いずれも仮称ですが、平成30年度から南部地区職業教育拠点校準備委員会を開きまして、平成33年度からは開設準備委員会を設置して検討していきたいと考えております。なお、開校前から※印のところにありますが、地域との連携活動について検討を進めるため地域パートナーシップ会議の設置も考えております。先ほど配付したカラー刷りの資料に大まかな配置を示してありますが、校門から入ったところが校舎エリア、奥まったところに実習棟エリアとその奥にグラウンドと今のところ、ここまでしか決まっています。今後決まっていくこととなりますので参考までにご覧ください。以上でございます。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。ただ今説明のありました報告事項につきまして、委員の皆様から御意見・御質問等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

塩村公子 委員

新しい校舎が着々と出来上がっているようで、大変頼もしく思います。震災によって新しく建てなければならないという事項があったと思うのですが、防災というか減災というか、そのあたりの工夫がどこかになされているのかということをお聞きしたいと思いました。

2点目として、各高校、設備が以前の特徴を踏まえてということだと思うのですが、随分ばらつきがあるような気がしたのですが、そのあたりの意味についてもお聞かせいただきたいと思います。以上2点お願いします。

伊藤房雄 会長

事務局お願いします。

事務局 黒田賢一

御質問ありがとうございます。防災・減災のことについては、気仙沼向洋高校を見ていただければ分かりますけれども、当然沿岸部から離れた場所をしているということ、水産高校は同じ場所ですが、浸水したということでかさ上げをして建て替えをしているということになります。

各校に設備のばらつきがあるということですが、基本は震災前の現況に戻すという原則です。先ほどの説明でも農業高校は立派な施設設備だと感じるとは思いますが、元々の名取の広浦の施設がそれぐらいあったということがまず一つです。そのため、同じような敷地と設備になっています。また、説明ではなかったのですが、水産高校は、生徒の校舎棟を建て替えるだけで、それ以外の実習設備は既存のものを基本使います。水産高校の場合、食品加工で震災前はハサップ（HACCP）の認定を受けていた施設があるのですが、その設備は、今は認定をされていません。また、新校舎にできる調理室は

いわゆる家庭科の調理室ではなくて、調理師養成施設の認定を受けているということで専門的に学べる調理室になっています。そういう意味で各学校それぞれ特色ある設備を作っています。気仙沼向洋は、学科が水産科と、工業科もあるので、実習棟の中には工業の実習施設や、食品加工施設、ダイビング実習施設もできるということで、私もどのようなものか出来上がりが楽しみであります。そのように学科の特色を踏まえた施設設備となります。

伊藤房雄 会長

よろしいでしょうか。他にございますか。

本図愛実 委員

どうもありがとうございます。大変大規模な工事で4月以降は大変素晴らしい環境が提供されるのだと思うのですが、現高校3年生の生徒さんたちにとってみると、工事を見てそれで卒業していくということになるのですが、現3年生についてのケアといえますか、工事を進めることは仕方がないと思うのですが教育環境について配慮がされているのかということと、卒業してからもぜひ愛校心をもって本県を支える専門教育を受けた人材ということになると思っていますので、愛校心をもって自分たちの学び舎はここだったんだなという気持ちをもって、誇りをもって巣立っていただきたいと思います。そういう点でどんな工夫をされているのかお聞かせいただきたいと思います。

伊藤房雄 会長

事務局お願いいたします。

岡 邦広 高校教育課長

現在在籍する生徒たちについてですけれども、水産については現在の校舎をそのまま利用した形で工事が行われています。気仙沼向洋高校については、気仙沼高校の第2グラウンドに仮設の校舎があり、その場所にも各方面から色々な支援をいただいております。特に金額の大きいところでは、経済同友会のIPPO IPPOの方から新しい実習用の機材等を現在の仮設校舎の方にも配置させていただいております。そういったところで、機材も最新のものを使って実習を行っているところです。

農業高校については、県の農業大学の敷地内に仮設校舎を作らせていただいて、施設についても一部供用させていただき、実習等も進められております。

新しい施設の工事の進捗とも関係があるのですけれども、農業高校については一足先に地域の方や同窓生も含めての内覧会を予定しているようです。気仙沼向洋高校については、マスコミの報道にもありますように工事が一部遅れているということで引越した方は次年度になってしまいますけれども、そういう中でも卒業生については、学校の方に足を運んでもらってということは学校の方では考えてはいると思います。

引地智恵 委員

塩村委員に続いてですが、建物について何か環境を意識して特別に配慮したというようなことはあるのでしょうか。震災を経験しての新校舎を建設するのでから環境問題、エネルギー問題とか、省エネルギーを加味した建物を建設することで、自然エネルギーや環境保全に対する教育もできるのかと思います。水産高校や農業高校にしてもエネルギーを使った勉強もあると思います。社会全体、特に企業側でも環境に対する意識を持つ人材を評価する流れになってきていると思います。

伊藤房雄 会長

私からも若干補足しますと、原状復帰なので、実施設計する段階でエネルギーのこととかあまり考えずに設計されたと思います。現に我々、東北大農学部も雨宮から青葉山に移り建物は新しく良いのですが、もう少し工夫があってもよかったかなと思うところがあります。例えば、太陽光などの再生可能エネルギーの供給があればよかったのかなと思うのですが、現実には中々難しい。ただ、これからそういった工夫を取り入れてい



くことが課題と思います。引地委員がおっしゃったようにそういったエネルギーを実際校舎に反映させることで、学ぶことに現実味を帯びてくればいいのかと思います。もし何か今の段階でそういった工夫がされていることがあれば事務局の方から説明していただければと思います。

岡 邦広 高校教育課長

今、会長さんの方からお話しがあった通りで、新しい校舎の建設については、原状復帰ということですので、施設設備の面でも特別なものということでの認定はされておられません。ただ、水産高校につきましては、今回の新設に合わせてということではないのですが、ソーラーを使っての発電をして、それによって魚の養殖をするための設備を現在の生徒たちも使って学習しています。今年度もさんフェアを行いました。そこで提供した食品の一部にもソーラーを使って養殖した魚が使用されました。それから、今お話に登場した学校とは別ですけれども、迫桜高校の方でもソーラーを使って野菜工場を作るということで今計画を進めておりまして、まもなく完成するかと思います。そのような施設はございます。

伊藤房雄 会長

今の点で、確かにそういった色々なものが各校でできればいいと思うのですが、県としてはそこまでの財政負担が難しいと思います。むしろ経済界の方と連携して、「一緒にこういう取組をしてみませんか」という提案や取組があったら良いと思います。お互いに話し合う機会を作る、例えば商工会の方々から「この高校でこんな取組をしてみようか」とか実験的なことも出てくるのではないかと思います。それが逆にそこで学ぶ生徒たちにとっては非常にいい刺激になるんじゃないかと、そういった点も今後検討していただければと思います。

他はいかがでしょうか。

高橋裕喜 委員

私は経済商工観光部におりまして、ものづくりの企業さんは人手不足で困っているという現状であり、産業教育に期待するところでもあります。先ほど南部地区の職業教育拠点の話がありましたが、これからいろいろ詰めていかれて平成35年度に1年生が入るということで、まだこれから色々検討される余地があるかなと思ってお話するのですが、ものづくり企業もですが、IT系の人材が日本全国足りない状況で、東京で人が確保できないということでIT系の企業が仙台に進出してきている状況があります。ITは日進月歩で明日どうなるか分からない、1年後はどうなっているか分からないという加速度的に進化・進歩していると思いますので、35年度開校に向けて時代に合ったIT教育を行っていただきたい。IT教育は他の高校にもできる範囲で入れていただければと思います。これから職に就く人は、ITの知識・基本的なスキルがないとやっていけない時代になっていきますのでよろしくお願ひしたいと思います。

伊藤房雄 会長

貴重なご意見ありがとうございました。

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、先に進めさせていただきます。

続きまして1の報告の「ロ 専門学科の進路状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局 太田祐一

工業と総合学科を担当しておりますキャリア教育班の太田と申します。少々お時間をいただきまして、平成29年3月新規高等学校卒業生報告における専門学科別の進路状況についてご説明いたします。

資料5-1の1ページにあります表をご覧ください。

この表は、産業別における平成28年7月末の学科別就職希望者数と、平成29年3月末の学科別就職内定者数になります。

最初に表の一番下にあります合計人数をご覧ください。学科別ですので、合計人数に大きなばらつきがありますので各欄において、数字が多いのが一番ということではないことに御注意願います。

ちなみに学科別の欄に、「その他」とありますが、これは「英語科」、「体育科」、「理数科」や「美術科」などが属しており、専門学科ですけれども産業教育ではない学科のくくりとなっています。また「総合学科」に関しては、「農業類型」・「工業類型」・「商業類型」や「福祉類型」など、一つの学科に複数の産業教育類型が設置されており、学校によって設置されている類型が違ってきます。

次の2ページ目は、この表に対するグラフになります。産業別において、学科別の内定者数の合計を棒グラフで示し、折れ線グラフが充足率を示しています。

充足率は、業種によってばらつきがありますが、平均しますと41.2%となっており、この中で平均を超えている業種は7つあります。7つの業種の求人件数を見ますと、求人件数が一番多い製造業以外については、求人数100件以下の少ないものが充足しているのが特徴として表れています。そのことから製造業は、本県におけるの基幹産業であることが理解できます。

次に普通科を除いた専門学科別で見えていきますと、就職希望者数、就職内定者数のいずれの割合においても、生徒は、自分が所属している学科の学習内容を反映した希望、内定の状況になっており、普段の学習が将来の仕事に対する意識の醸成につながっているのではないかと考えられます。

例えば、業種別に上から順に見ていきますと、農業では、農業科が13名希望し9名内定、漁業では、水産科が16名希望し7名内定。建設業、製造業では工業科が。卸売業・小売業、金融業・保険業では商業科。宿泊業・飲食サービス業では家庭科。医療・福祉では、看護の専攻科。介護事業では、福祉科というように、進路を決定するうえで、学科で学んだことを生かせる選択をし、内定していることが見てとれます。

総合学科に関しては、類型で分かれていますので、業種は多岐にわたっています。

続いて、3ページ目をご覧ください。

この表は、職業別における平成28年7月末の学科別就職希望者数と、平成29年3月末の学科別就職内定者数になります。

この表でも、学科と職種の関係性の特徴が出ているのがわかります。上から順に見ますと、専門的・技術的職業従事者については、工業科と看護専攻が希望者も内定者も多くなっております。

事務従事者については、普通科と商業科の希望者が多くなっています。ここの特徴としては、希望者と比べた内定者数です。普通科は、100名程内定者が減っていますが、商業科はほぼ同数となっております。一般的に事務職は、希望者に対して求人数が少ないので、普通科の生徒は受験したものの内定がもらえる割合が低いため、職種を変更したか、もしくは進学に変更したものと考えられます。逆に商業科の生徒は、学科の専門性や資格が有利に働き内定につながったものと考えられます。

このことは、次の販売従事者にも同様の特徴が表れていますが、ここでは家庭科の希望者が55名と他の職種と比べ、一番多い状況にありますが、内定は9名と大きく減っていることから、事務従事者の普通科と同様の状況にあると感じます。

この普通科と家庭科に関しては、次のサービス職業従事者のところで、似たような特徴として表れています。内定者数が、希望者数と比べ大幅に増加しており、これは事務従事もしくは販売従事の希望からサービス従事に流れたのだと考えられます。

なお、サービス職業には介護職員が入っていますので、福祉科の生徒の割合が多くな

っています。

農林業、漁業に関しては、産業別同様農業科・水産科が他の学科と比べると多くなっておりますので御確認ください。

製造・加工従事者、機械組み立て従事者、整備修理従事者は、希望者も内定者も学科に関連している工業科の生徒の割合が多くなっています。

一方、建設・掘削従事者については、工業科と普通科の生徒が多くなっていますが、特徴的なのは、普通科における内定者数が増加していることです。これは、建設業における人手不足から学科を問わず、内定しやすいことが要因としてあるのではないのでしょうか。

次の4ページ目は、この表をグラフにしたものになります。

どの職種に、どれくらい内定しているのか分かります。やはり、製造・加工従事者が一番多く、次いでサービス職業従事者、事務従事者の順になっています。

グラフの内訳を見ますと、先ほど説明いたしました専門学科の生徒は、学科の学習内容に関連した職種に就職内定しているのが分かります。

このことから、専門学科におけるキャリア教育の成果を確認できるとともに、専門学科の有用性が実感できると思います。

私の説明は以上になります。

伊藤房雄 会長

ありがとうございます。ただ今の説明に対して皆さんから御質問・御意見がありましたらお願いします。

今の説明としては、専門教育がしっかりと就職活動・就職先に反映されているという説明だったと思います。

いかがでしょうか。

7月の就職希望から、また就職活動を通じて出会った企業の人からの説明で心を動かされて、当初考えていた所とは違う所に就職した人もいるのでしょうか。やはり専門教育を活かした形で就職しているという解釈ですが、何かこれに関して御意見等ないですか。

間庭 洋 委員

経済状況がよくない時に、就職の内定というのが非常に大きな課題になっておりまして、教育庁さんの守備範囲ではこういったことになるとは思うのですが、今、社会経済的には既にご承知の通り、卒業した後の定着率ですとか、離職率ですとかが課題となっております。最近の国内あるいは東北、宮城県においても、先ほど話題になりましたけれども人手不足が大きな課題となっております。今のデータにもその一面がありました。卒業して就職した後の定着・離職が人手不足とも非常に密接な関係にありまして、卒業後の教育庁の守備範囲である瞬間的な状況はこれで十分課題として露出する分があるのですが、地域としては、継続的・持続的な人材がここに暮らし、住んでいただく、活躍していただくということが本来の目標でもあると思います。県庁さんにおかれましては関係するところと連携をお図りいただき、何らかの形で産業界とタイアップして、定着するための方策、あるいはその現状・課題、離職した場合の再就職など大事なテーマについて連携を図っていただきたいと思います。よりよき人材が宮城県に定着し、暮らし、住み、活躍していただく地域になるようにと思います。漠としたことですが、現状の課題が多くありますのでぜひ何らかの形でお受けとめいただければと思います。

伊藤房雄 会長

貴重な御意見をありがとうございました。

本審議会でも何年か前に離職のデータ等も確か出ていたと思います。そういった点を改善して間庭委員がおっしゃったように有能な人材が定着するように、そういった取組を進めていただければと思います。

事務局から何かございますか。

事務局 黒田賢一

テーマとして離職の問題があると思います。直近の労働局の発表では、全国の高卒の3年以内の離職率が40.8%で、宮城県は41.2%で全国平均に何とか近づいてきましたが、まだまだこれではいけないということで高校教育課の方では、今年度から経済商工観光部さんにもご協力をいただきまして、就職の多い学校に「地学地就」地域産業の担い手育成事業ということで連携コーディネーターを配置しております。それは今までですと、連携コーディネーターのような就職の支援を担当する方には、就職をさせることを業務の中心としていましたが、今年からは、就職後に、地域に定着させるということで企業訪問や、卒業生のところに訪問して定着させるという取組を今年から始めました。校内での生徒に対しての就職支援の業務量が多すぎて、予定した通りの動きができていないところもありますが、徐々にそういった業務を増やしてもらいたいと考えています。また、よく言われているインターンシップなどは、地域の企業の方々と一緒に進みたいと考えております。我々の分析では、高校を卒業してすぐに働く生徒は、約9割近くが地元に残って就職しておりますので、だいぶ地元には貢献しているのではないかと考えているのですが、引き続き地域で活躍する人材の育成に努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

伊藤房雄 委員

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

栗野琴絵 委員

松山高校の栗野と申します。今お話があった通り、連携コーディネーターを今年から活用させていただいております。鹿島台商業さんと兼務をさせていただいておりますが、もちろん主体は学校で、3か年の進路計画を立てながらその中で連携コーディネーターの方に色々助けていただいております。私は赴任して2年目ですが、離職率、せっかく就職したのに続かない、そこを学校としても問題視しています。今回、連携コーディネーターを活用して心強いと思ったのは、会社や企業について、かみ砕いて子どもたち、あるいは私たち教員にお話ししてくださるんですね。それを基にして私たちも計画を練り直しましょうということで、今日も夕方から次年度対策の3回目の話し合いをする予定です。大崎地区には色々な企業がありますが、インターンシップを活用しながら地域の企業に可愛がっていただく、子どもたちと一緒に育てていこうということで、そういう意味でも連携コーディネーターの方に足を運んでいただいて学校にフィードバックしていただけたところが非常に貴重だと思っています。子どもたちは今、乾いたスポンジ状態なので、お話をさせていただくことにより、色々響いているのではないかと考えております。地道な取組ですけれども、連携コーディネーターだけではなくて、学校には教育振興会という組織もございますので、地域の経験豊富な先輩方に知恵をお借りして子どもたちの面接指導などを行っていただいております。将来構想にもありました、「人と関わる力の育成」が重要だとつくづく思っています。子どもたちは井の中の蛙で、小さい集団の中で生活していますので、人と接することが苦手な自信がありません。そういった中で、連携コーディネーター、地域の企業の方々にも学校を支えていただけるようにこちらからも色々発信していかなければならないと思っております。一つ悩みなのは、インターンシップです。夏休みを利用して行っていますが中々企業の開拓が難しく、地域の方々にも協力していただいておりますけれども、2・3日では足りないと感じて

います。会社組織という動きの中で子どもたちを受け入れていただけるかということも大きな課題になっていて、社会人として働いている大先輩の意見をいただいて、学校としても工夫をしていかなければならないと思っています。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。補足的な説明や現在高校の現場で抱えている課題の話でした。話に出ていた連携コーディネーターはいま現在県内にどれ位いらっしゃるのですか。

事務局 黒田賢一

今日は資料を準備しておりませんでした。30校に15名配置しております。

伊藤房雄 会長

30校に15名ということですが、生徒一人あたりにだいぶ時間を取られると思いますが、増やす計画はあるのでしょうか。

事務局 黒田賢一

実績をあげないと増やすことはできないと思っておりますが、松山高校の校長先生からもあったように、松山高校の連携コーディネーターさんは良い例で、鹿島台商業との兼務について、求人票を共有できたとか、立場をうまく活用していただいております。会社側にとっても1人のコーディネーターに会えば2校の情報が得られるということでもとても良い関係が築けております。今後、そのような例を増やして行って実績を作っていきたいと思っております。

伊藤房雄 会長

コーディネーターの人数だけでなく質とか層を厚くする取組をしていただきたいと思います。

他いかがでしょうか。

本図愛実 委員

単純な質問ですが、専門高校の成果が就職にも反映されているというお話を伺いまして、大変安堵したところなのですが、先ほどらい御提示があります第6次産業については、おそらく理念的な部分も概念的な部分も多いと思いますが、この産業別というところで見た時には、どんな辺りに含まれていて、専門高校の成果だと今後も含めて言えそうかというところはございますでしょうか。それとも、今現在はあくまで概念的なものであって、専門高校の成果としてはこの産業別では把握できないと理解した方がよろしいでしょうか。

伊藤房雄 会長

事務局いかがでしょうか

事務局 黒田賢一

この就職のデータからは把握できないのかなと思っております。この後、特色ある取組のところでも6次産業化の取組について御説明する予定です。

伊藤房雄 会長

よろしいですか。他はいかがでしょうか。

塩村公子 委員

就職の希望者数総数と内定者数に少し差があると思うのですが、この差をどう理解するのかというところで、色々なものが含まれていると思うのですが、そのあたりについて内容的に把握したいというのが1つです。それからこの表で見ますと、一番左に県内の求人数が書いてあって、その充足率が一番右の充足率というのでよろしいのでしょうか。そうすると、かなり充足率を下回っているところも見受けられると思うのですが、これについて重点的に何か考えていることはおありでしょうか。2点についてよろしくお願ひします。

伊藤房雄 会長

事務局の方からお願いします。

事務局 黒田賢一

まず、求人希望と内定について、下の合計のところだけ見ますと千人減っています。未定が1,500人いるので、漠然と就職希望ではあるけれども進路相談をしながら最終的には就職でなくなっているというケースがあります。特徴的なのは、公務員希望がこの時点で585人、だいたい600人位いますが、最終的に落ち着くのが300人位ということで、大幅に減ります。いずれ当初は就職を希望していても進学できるのであれば、進学したいという生徒が増える傾向で、だいたい落ち着くところは3,700人から4,000人位と考えております。求人と充足の関係については、高校教育課では、ものづくり人材の育成に関しては、クラフトマン21事業ということで予算をいただいて、人材育成にあたっているという実績があります。他には、各部局からよく相談を受けるのですが、例えば介護職員のセミナーを行うというのであれば、担当部局から直接学校に案内を出すよりは、高校教育課を通して案内すれば学校に積極的に活用するよう働き掛けやすいので、そういう点で各産業分野の要望に応えるという形で連携しているところです。

### 3 議事(2) 議題

伊藤房雄 会長

よろしいでしょうか。まだ質問があるかもしれませんが随分時間も押しておりますのでここで一旦閉じさせていただきます。

続いて(2)の「イ 専門学科の新たな取組の状況・課題について」の(イ)から(へ)まで、各校の取組について事務局から説明をお願いします。

事務局 黒田賢一

資料6-1から6-7までの冊子の1ページから3ページの上の所に昨年度いただきました提言を載せてあります。その提言の中から特色あるものということで、各学校・各学科にどのような取組をしているかという調査した結果をまとめました。1ページ目は志教育の推進で、特色ある取組をまとめたもの、2ページについては職業教育の充実で、特に6次産業化を視野に入れた教育活動、3ページについては、震災後の地域復興、その中でもグローバルな視点で捉える力に絞って各学科から出してもらいました。内容量等ばらつきはありますが、特に3のグローバルな視点で捉えるというところにつきましては、まだ中々手をつけにくいというところもありまして少なくなっているものと思われれます。

この後、特に資料6-1の網掛けの部分について、資料の6-2から詳しい資料を用意しておりますので各担当の方から説明します。

事務局 太田祐一

それでは、私の方から資料6-2の白石工業高校と資料6-3の工業高校の取組事例について御説明いたします。

まず、資料6-2をご覧ください。

白石工業高校が取り組んでいる「企業連携による商品開発～食品サンプルキーホルダーの制作～」についてです。白石工業高校には、機械科・電気科・建築科・工業化学科・設備工業科の5学科ありますが、その中の工業化学科が実習で学んだ知識を活かすために取り組んだ内容になります。

中段にあります「いちごキーホルダー」「仙台笹かまぼこキーホルダー」は、平成26年度に行われた全国産業教育フェア宮城大会で、宮城のPRをするためにキーホルダーを制作し、配布しようということで取り組まれました。特にいちごに関しては、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた亘理町、山元町の「もういっこ」への復興応援のため

に製作したとのことでした。

写真を見ていただければ、お分かりだと思いますが、本物のいちごや、かまぼこから型を取ったということで、かなり精巧な出来栄となっております。

続いて下段にあります「白石温麺キーホルダー」ですが、これは地元の名産品を全国にPRするために温麺協同組合と連携し取り組んだ内容で、写真は、きちみ製麺で実際に販売している「つりがね温麺バージョン」になります。この他にも「金印温麺バージョン」があり、税込499円で販売しております。店頭販売のほかにも、きちみ製麺のホームページでも販売しておりますので、お一ついかがでしょうか。

白石工業高校の取組は、学科の学習に関連した内容を活用し、地域連携を通して、ものづくり技術を地域に還元することを目的とした内容となります。

次に、資料6-3をご覧ください。

今年度から工業高校が取り組んでいる「台湾との学校交流」についてです。県経済商工観光部アジアプロモーション課の協力のもと、5月と12月の2回交流を持ちました。なお、1回目と2回目の台湾から訪問された学校は別の学校になります。今回訪れた国立西螺（せいら）高級農工職業学校は、2010年から韓国との海外交流を始めたとのことでしたが、2013年から被災地見学を目的とし訪日するようになり、今回の交流が、日本の学校との初めての交流ということでした。

5月の1回目の際は、学校施設の見学と学食と一緒に昼食をとるだけの内容でしたが、2回目、12月に実施した際は、資料にありますように「課題解決型ワークショップ」を取り入れ、ブリッジコンテストを行いました。ブリッジコンテストを簡単に説明しますと、A3用紙を丸めたもの2本、A3用紙3枚、養生テープ1巻を利用して、一番重い荷重に耐えられるように橋を作るコンテストで、県工と台湾の生徒が混合でチームを組み、作戦を練って実際に製作しチームで競います。

私も、実際に交流会を見学させていただきましたが、コミュニケーションはもちろん英語でとらなければならないので、アイデアを出し合うのもかなり苦戦するかと思っていましたが、アイデアを絵で表して伝え合うなど工夫を凝らしてコミュニケーションを取っていました。また、今どきの高校生だなど思ったのが、スマホでグーグル翻訳を活用し、コミュニケーションをとっていたのが印象に残りました。次年度以降も、グローバルな視点を育成する目的で取り組む予定でいるとのことでした。

以上、白石工業高校と工業高校の取組事例になります。

事務局 佐藤 洋

私からは、資料6-4の水産高校の取組、資料6-5の農業高校の取組について御説明させていただきます。

資料6-4の水産高校の取組です。高大産連携プロジェクトということで「こめぼこ」の商品開発プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトは、水産高校が被災によって校舎が使えなくなり、石巻北高校の敷地内の仮設校舎に移転してきたことから始まった交流活動から発展したことになります。私自身もこのきっかけを作った当の本人でありまして、以前からこういう交流をしてみたいなと思っていたところで実現したものになります。それから石巻専修大学さんに仲介をしていただきまして、大学の方から商品化を進めようということで楽天野球団と阿部蒲鉾店の協力のもと、このプロジェクトが立ち上がりました。キックオフイベントということで昨年の4月28日に5社によるイベントが開催されました。5月23日に宮城水産高・石巻北高・石巻専修大の合同田植えが行われ、6月に阿部蒲鉾店で企業実習、7月に楽天と阿部蒲鉾店の方々に高校生と大学生による「こめぼこ」販売に向けたプレゼンを行い、7月の末にはk o b o パーク宮城で「こめぼこ」を販売、8月には石巻市民球場でも「こめぼこ」を販売しました。そのことについては裏面をご覧ください。また、12月21日に水産高校を会場

に合同「こめぼこ」実習が開催されました。この「こめぼこ」実習には楽天の元選手の牧田ジュニアコーチも来ており、楽しく製造から試食まで行っていました。

この活動については、2月10日「高大産連携プロジェクト」として石巻専修大学を会場に報告会が実施され、その中でもこの取組を報告するとのことでした。

瀧田校長先生からは、こういった取組は全国でも大変珍しいものなので、これからも積極的に行っていきたいと話しており、今後注目して見ていきたい取組です。

続きまして資料6-5、農業高校の6次産業化に向けた取組です。

今年度「第6回ご当地！絶品うまいもん甲子園（農林水産省主催）」の最終審査会において、最高賞である「農林水産大臣賞」を受賞致しました。優勝作品は「パリッと閉上おにしらす」。閉上漁港で今年初の水揚げがされたしらすを使い、アボガド、チーズ、梅、海苔、高菜、タルタルソースによる「おにぎらず」を作りました。先月12月には教育長への表敬訪問も行い、2月にはファミリーマートで商品化されるとのことでした。これは、学科の枠を超えて、放課後の活動となる「農業経営者クラブ」の取組になります。

他の取組としては、地元の企業と連携で、いちごや果物を使ったジェラートの商品化があります。こちらにも新聞に掲載されました。こういった地元で根ざした6次産業化ということで先進的に取り組んでいる生徒たちがいるということで御報告させていただきたいと思えます。

私からは以上です。

事務局 黒田賢一

続いて商業科関係について御説明いたします。

資料6-6になります。大河原商業高校では、先ほども説明しました南部地区職業教育拠点校の取組につなげることも目的の1つとして、3年生の選択科目「電子商取引」において、「大商デジタルマーケティング人材育成事業」として実践的なネットショップの開設・運営を行いました。これは、ヤフー株式会社と全面的に御協力をいただき、10月からヤフーの社員を講師としてお招きし、3のプログラム内容に記載のとおり、12月までに4回、今月はこれからあと1回、大河原商業高校でネットショップに関する講義をしていただきました。このほかに動画配信システムを利用して、ヤフー本社と直接つないで社員によるオンライン講座も併用して授業を進めたということです。

先月の12月13日から26日まで、2週間限定で、実際のヤフーショッピングにネットショップを開設し、実際の販売活動も行いました。10・11ページが実際のトップページになります。新聞に取り上げられたこともあってアクセスは沢山あったとのことですが、売り上げは今一つだったと聞いています。それは、商品が700円から1300円の幅の設定であったのに対し、一回の注文で送料が900円かかることなどそんな契約内容になっているらしく、注文するのを躊躇する人もいたと思われそうです。今後、今回の反省が生かされればいいかなと思います。

生徒は校内だけで模擬取引で勉強するよりも、実際のネットに上がって全国の人に見られているということが良い経験になったと、ぜひ次年度以降も続けて欲しいと思っております。

最後に、資料6-7をご覧ください。昨年度の審議会でも視察していただきました登米総合産業高校の特色としてパートナーシップ会議について御説明いたします。登米総合産業高校では、1年生から3年生まで、それぞれ学校設定科目を作って取組を進めています。開校時から、登米地域の産業界・行政・教育機関等と学校が強いパートナーシッ



プを結んで、地域に根ざした実践的な教育活動を展開するとしてパートナーシップ会議を構成して、教育内容について御意見をいただきながら進めています。

1年生では「産業基礎」という全員共通で学習する科目で、特色としては、所属学科以外の他学科の学習を体験したり、地域の職業人の講話をいただいたり、学科に関係する・関係しない企業見学、学科の学習にこだわらない職種・業種でのインターンシップを行っています。

2・3年生では、起業実践という学校設定科目があって、2年生は3年次で行う起業実践のベースとなるグループ学習等様々な手法を使って意見を出し合えるようにしたり、地域の課題について学習しています。3年生ではその知識を生かして実際に各学科の生徒を混合してグループを構成し、話し合い活動をして成果を出すという取組を行いました。今年度は、日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスグランプリ」にエントリーし、地域の活性化をテーマに3年生全員が27グループに分かれて、課題解決のための提案を作成しました。残念ながら、最終の本選には選ばれませんでした。学年全体の取組ということで学校賞をいただいたということでまた来年に繋がっていくものかなと思っております。

私は、12月にパートナーシップ会議の専門学科連携部会に参加してきました。各学科の部会には、パートナーシップを担当する企業の方が入っており、活発に意見交換がされていました。会議の中では、今年初めて行った3年生の起業実践について、「これこそが登米総合産業高校の肝となるものだ」、「生徒のグループにアドバイザーとして入ってみたが、中々意見が出ないグループもあった」、「先生方が同じ方向を向いていないと上手く進まない」、「先生方はいずれ異動するが、我々はずっと地元にいるのでこの学校を支えていきたい」等、活発な意見が出されていました。今年で開校3年目で、3年生の科目は初めてなので、来年以降も地域の方からの思いを受けながらよりよいものになっていくと感じてきました。これから南部地区の学校について検討していくこととなりますが、この登米地域のパートナーシップ会議というのは大変参考になるのではないかと考えています。今後、試行錯誤しながら学校でも取り組んでいくということになっています。以上です。

伊藤房雄 会長

多岐にわたる内容を的確に説明していただきありがとうございます。当初お話ししていたように、本日の審議会は11時50分終了を目途にということでしたが、せっかくの機会ですので12時頃を目途に、今説明していただいた内容を受けて、今後各校の取組、また教育内容の充実させる上でお気付きの点、御意見等ありましたら出していただけたらと思います。及川委員からどうでしょうか。

及川公一 委員

(2)の専門学科の新たな取組ですが、各学校で実施されている内容について御説明いただきありがとうございました。専門高校ということで、色々な取組があるということが見えました。一番最後にあったように、地域の中での取組ですが、高校自体その地域で皆さんの協力を得ながら職業教育をしていただくというのが大切かなと思っております。それぞれの学校で皆さん一生懸命やられていると思いますが、登米の方はある程度一つの学校の中で、商業があったり工業があったり農業があったりとか全体的な職業教育の中でバランスが取れていて色々な発想ができるかと思いますが、工業高校とか農業単体での高校ですとかは、今後の仙南の高校再編の絡みもありますが、そういうところからすると、色々な部署、専門高校だけでなくいいのですが、普通高校も取り入れた形での地域全体のコラボレーションという発想で色々な取組をしていくのがいいのではないかと感じました。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて引地委員お願いします。

引地智恵 委員

専門高校として、地域との連携・交流を一層深めることはとても大切です。実践的な教育や外部人材を活用した教育活動は、大変良い取組だと感じました。これは今後継続して行っていくのでしょうか。例えば、色々商品開発をしていますが、それに伴い課題と改善点が出てきていると思います。今後、生徒自身がステップアップしながら解決の糸口を探っていけるようなカリキュラムが組まれていければと思います。白石工業さんの食品サンプルキーホルダーの製作について、消費者がどういう風に受け取っているかを検証してみるとよいと思います。作り手の一方通行でなく、消費者側の反応も把握してこそ次の改善点に繋がるのだと思います。

水産高校さんについて、前に御説明いただいた時に販売の勉強をしているとお聞きしています。そこで、コスト意識も課題として明確に出てきてもいいのかなと、そうすれば販売目標や方針が具体的に掲げられ、学習効果が出るのではないかと思います。

登米の地域パートナーシップ会議では地域の方や地元企業との連携はとても良いことだと思いました。

企業側としては、専門高校と関わりがあることで、生徒さんと繋がりができ将来的に会社への理解と人材確保に繋がる事例になると思います。

AIを企業も積極的に取り入れ、社会全体が急速に変貌していく中で、今後生徒さんたちはどんな力が社会で求められているのか、色々な企業と交流することで先の方向性をつかむきっかけにもなると思います。

このような取り組みは他の地域でも、是非連携してやってもらいたいと思いました。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて小野委員お願いします。

小野秀悦 委員

各専門高校、専門学科の方々が行っていること、本当に良いことだと思います。高校の方々に私共を遠慮なく使っていただきたいというのがあります。今水産高校でも一緒になってイベントに出たり、それを実習としてやっていただいたりするのですが、皆さん作っていただいているものも良いものもありますし、それを実際に消費者の方々がどういう風に受け止めるのかも含めて、産業界とか地元を使っていただいて、遠慮なく言うていただければ、お手伝いできると思いますので、地元の企業の方々にも積極的にお手伝いいただいた方がいいと思います。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて菅原委員お願いします。

菅原一博 委員

教育長が第4次産業革命というお話をなさいましたが、IT, IOT, AIということで、元年と言われるほど時代が大きく変わりつつあるという気持ちになっています。そのプラットフォームが大きく変わる時に、あと30年後には今の職業が40%位なくなると言われているわけですが、そういった職業教育というものをどのように子どもたちに知らせて、しかも県としてどのような人材育成をするのかという非常に大きな問題があるのではないかと思います。ぜひこの辺も2, 3年かけて、将来の第4次産業革命に対応できる人材育成を考えていただければと思います。同時に、県としては農業・水産業ということで適切な指導をしていると思いますし、大変重要なことだと思っております。先ほど離職率の問題も出ましたけれど、大学も高校も同じですけれども、3年以内に40%も辞めているということには、現場との乖離があると思います。3年も教えたのに3年後には辞めてしまうというのでは大変だと思います。ぜひその辺の教育指導をし、ミスマッチがないようにお願いしたいと思います。

もう一つは、連携ということでマーケット・インということを非常に意識していますので、買っていただかないと当然駄目なわけで、ぜひマーケットをきちっと認識した形での教育といえますか、顧客あるいは消費者が何を望んでいるかということ子どもたちに十二分に教えていただければ、良い未来が見えてくると思いますのでよろしくお願いいたします。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて栗野委員お願いします。

栗野琴絵 委員

学校の子どもたちを育てる側に立って、今色々なお話を伺って、吸収してまた学校に戻って実践したいと思います。松山高校は家政科がありますけれども、家庭教育が子どもたちが育っていく根底にあると思っています。もう一つ普通科がございますので、普通科の中での家庭科教育というのを本校の特色にして一生懸命やっているのでもっと出していきたいと思っています。それから、先ほども申し上げましたが、登米総合産業高校と同じように、地域の皆さんに育てていただいているという実績がありますので、もっと形にして出していきたいと思っています。地域の企業の方々に助けをいただきながら取り組んでいきたいと思っています。今日はありがとうございます。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて高橋委員お願いします。

高橋裕喜 委員

私は経済商工観光部でして、今は人手不足対策について頑張っているところでございます。高卒で離職してしまう人が多いということで、雇用のミスマッチへの対策や工場現場の見学等を行っています。先ほどの登米地域パートナーシップはとても良い取組だと私も思いましたので、もう少し詳しく教えていただければと思います。あとはやはり、経営者の方も、若い人材を育てるという意識が大変大事だと思います。経商部としては、経営者の意識改革についても取り組んでいるところでございます。今日色々お話を聞かせていただいて、高校でも良い取組をしているということがありましたので、より一層連携して今後活かしていければと思います。ありがとうございました。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて塩村委員お願いします。

塩村公子 委員

各高校の色々な取組をご紹介いただきまして非常に刺激的で面白く感じました。私が危機感を持っていることは、第4次産業革命とかそちらの進行が非常に早く、それに中々追いつかないという感じがあるということです。水産高校さんが高大産の連携ということで事業をやっておられますけれども、これを少し広げて考えると高校だけで完結できるものなのだろうかという危機感がありまして、高校を卒業して仕事に就いて、仕事に就きながらまた学べるというような広がりや繋がりがもっともっと必要になるだろうと思うわけです。そのあたりも視野に入れての高大産の連携というところの取組が必要かなと思います。以上です。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いて本図委員お願いします。

本図愛実 委員

本日はどうもありがとうございました。私からは2点ございまして、先ほども申し上げましたが、第6次産業、大変魅力的な想像力が必要だろうと、主体性やコミュニケーション力とか技術力が求められるし、魅力的でありハードルも高いと思います。ぜひ第6次産業について、専門高校さんで頑張っておられるグッドプラクティスを宣伝していただきたいと思います。

2点目は提言にもありますような、また委員の皆さんからもお話しにありますような地域との連携・協働です。さんフェアにおいて、商業科の皆さんが小学生に企業体験をなさっていて、私は都合が悪くて実際見られなかったのですが、小学生が専門高校の方の手ほどきを受けて、仕事体験をするという大変素晴らしい試みだと思います。2重3重の意味で子どもたちにとっても高校生にとってもこれからの産業界にとっても、大変素晴らしい試みではないかと思いました。ぜひ拡充していただけたらと思います。ありがとうございました。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。最後に間庭委員お願いします。

間庭 洋 委員

どうもありがとうございました。最後にご紹介いただいた登米の地域パートナーシップ会議は大変素晴らしいと伺っておりました。地域の色々なプレーヤーの方々、それから学校の先生、教育者、生徒たちが何らかの形で参加できるこういう場というのは、大変素晴らしいなど。特に先生も生徒も地域の実状を共に担いながら体験をしていく、或いは、地域の方々との人間関係を養うということが、社会に出てやがてその地域、宮城県を背負っていく人材になった時に非常に大切なことだと思いますので、このようなことが他の地域でもできれば大変素晴らしいなどと思って伺っておりました。以上です。ありがとうございます。

伊藤房雄 会長

皆さんに十分な発言の時間をとれなくて申し訳ありませんでした。おそらくまだ御意見等あるかと思いますが、それらについては後日、産業教育審議会意見用紙に記載していただいて事務局まで送っていただければと思います。

最後になりますが、私、皆さんの説明、御意見を聞きながら一つ思いましたのは、間庭委員にもまとめていただきましたが、登米の地域パートナーシップ会議、これが徐々に効果が出てくるのだろうということです。皆さんの御意見は、このパートナーシップの場を作るということが非常に有効という意見だったと思います。このような仕組みを他の地域で作るには、例えば商工会であったり、農業関係であれば農業法人協会、漁業関係であれば小野委員の漁協などといったところと、それぞれの地域の高校の校長先生や教頭先生が何度か意見交換をして、パートナーシップ会議のような場を作っていくことが肝要と思います。事務局から関係者にお声掛けはするのですが、基本的には高校の先生とそれぞれの地域の中心になっている方で、まずは「こういった取組をやれませんか」といったところからスタートするのがいいのではないかと思いました。

今日は何かを解決するというのではなくて、皆さんの意見をいただいて、それをまた事務局でまとめていただいて、今後取り組むべき課題等を明らかにするというのが趣旨だったかと思いますが、今日色々頂戴した御意見を事務局でまとめていただいて、今後の施策の参考にしていただければと思いますし、また、皆さんから頂戴した御意見は議事録としてまとめていただいて、事務局からまた皆さんにお送りして確認するという作業があるかと思いますが、ぜひそちらについてもご協力をお願いいたします。

12時を若干過ぎてしまいましたが、以上で本日の審議を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

進行  
(事務局 佐々木)

議長の伊藤会長、ありがとうございました。

委員の皆様、本日は熱心な議論をありがとうございました。本日ご発言しきれなかったことがございましたら、お配りしました意見用紙にご記入の上、1月26日(金)までに、FAX又はメールでお送りいただきますようお願いいたします。

続きまして、来年度の審議会の予定について連絡いたします。

委員の皆様の任期は平成30年7月31日までとなっております。任期中の7月までの間に、新築された農業高校の視察を行いたいと考えております。そして、改選を経た後に水産高校の視察を行いたいと今の所予定しております。

最後に事務連絡ですが、委員の皆様で旅費等のお支払の口座の変更がある場合は、私の方までお申し出ください。

#### 4 閉会

(事務局 佐々木)

以上をもちまして、平成29年度宮城県産業教育審議会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。